

野辺地勝久ピアノ独奏会

米子労音5月例会
1959年5月18・19日

プログラム

1. アンダンテ・スピアナートに先行された華麗なる
大ポロネーズ 作品22
2. 奏鳴曲No.2 変ロ短調 (葬送行進曲附) 作品35
3. a) 幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66
b) 3つの練習曲
 ホ長調 (別れの曲) 作品10の3
 ト長調 (黒鍵) 作品10の5
 ハ短調 (革命) 作品10の12
c) 夜想曲 嬰ヘ長調 作品15の2
d) スケルツォ No.2 変ロ短調 作品31
4. 3つの円舞曲
a) 華麗なる大円舞曲 変ホ長調 作品18
b) 変ニ長調 作品64の1
c) 嬰ハ短調 作品64の2
5. ポロネーズ 変イ長調 (英雄) 作品53



野辺地さんについて

明治43年東京生れ、旧名瓜丸、15才のとき、パリのエコール・ノルマルに入学。在学中コルトー、ラザール・レヴィ教授に教えを受け昭和5年帰国しました。現在独奏、室内楽奏者として活動されるかたわら東京芸術大学講師の職にあって教育家としてもすぐれ、後進の指導にもあたる。

一方わが国における最高のショパン演奏家として定評があり、ショパンの近代的抒情性を内面的に掘りさげた氏の演奏は滋味溢るものがあります。